

(案)

第4次国有林野施業実施計画書

(下越森林計画区)

計画期間 自 平成22年4月 1日  
至 平成27年3月31日

関東森林管理局

## 目 次

1	国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域	1
2	施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積 又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごと の更新方法及び更新量	1
(1)	伐採造林計画簿	1
(2)	水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別面積等	1
(3)	水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別の上限伐採面積	2
(4)	資源の循環利用林における生産群別の面積等	3
(5)	資源の循環利用林における生産群別の標準伐採量	3
(6)	伐採総量	4
(7)	更新総量	5
(8)	保育総量	5
3	林道の整備に関する事項	6
4	治山に関する事項	10
5	保護林及び緑の回廊の名称及び区域	11
(1)	保護林の名称及び区域	11
(2)	緑の回廊の名称及び区域	21
6	レクリエーションの森の名称及び区域	23
7	その他必要な事項	37
(1)	施業指標林、試験地等	37
(2)	フィールドの提供	38
(3)	その他	38

## 1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域

国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域については、別添国有林野施業実施計画図による。

## 2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

### (1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、別添伐採造林計画簿に示すとおりである。

### (2) 水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別面積等

（単位：面積ha、伐期齢 年）

施業群	面積	取扱いの内容	伐期齢又は回帰年
スギ 長伐期	3,791.50	伐採面積の縮小、モザイク的配置	100
スギ 分散伐区	4,689.36	〃	55
ヒノキ 長伐期	—		—
ヒノキ 分散伐区	—		—
ヒノキ枝打分散伐区	—		—
アカマツ 長伐期	161.03	伐採面積の縮小、モザイク的配置	80
アカマツ 分散伐区	540.48	〃	55
カラマツ 長伐期	—		—
カラマツ 分散伐区	—		—
スギ 複層林	1,423.29		55～110
ヒノキ 複層林	—		—
その他 複層林	—		—
天然生アカマツ分散伐区	427.96	伐採面積の縮小、モザイク的配置	55
ぼう芽 分散伐区	734.64	〃	25
天然林漸伐分散伐区	2,746.80	伐採面積の縮小、モザイク的配置、伐採率の縮小	70
ブナ漸伐 分散伐区	1,032.13	〃	150
択伐	18,359.05		回帰年は定めない
その他	325.93		定めない
施業群設定外	20.71		—
合計	34,252.88		

（注） 択伐施業群の伐採は標準伐期齢以上とし、水源かん養機能の発揮に配慮しつつ隣接林分の主伐、間伐時に併せるなど適時に行うものとする。

## (3) 水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別の上限伐採面積

(単位：h a)

施業群	上限伐採面積	摘要
スギ長伐期	190	
スギ分散伐区	426	
ヒノキ長伐期	—	
ヒノキ分散伐区	—	
ヒノキ枝打分散伐区	—	
アカマツ長伐期	10	
アカマツ分散伐区	49	
カラマツ長伐期	—	
カラマツ分散伐区	—	
スギ複層林	129	
ヒノキ複層林	—	
その他複層林	—	
天然生アカマツ分散伐区	39	
ぼう芽分散伐区	147	
天然林漸伐分散伐区	196	
ブナ漸伐分散伐区	34	
択伐	1,836	
その他	33	
施業群設定外	—	
合計	3,089	

## (4) 資源の循環利用林における生産群別の面積等

(単位：面積ha、伐期齢年)

生産群	面積	生産目標等	伐期齢又は回帰年
スギ大径材	—	造作材 (36cm)	100
スギ中径材	491.87	一般建築材 (24cm)	55
ヒノキ大径材	—	—	—
ヒノキ中径材	—	—	—
ヒノキ無節柱材	—	—	—
アカマツ大径材	—	造作材 (30cm)	80
アカマツ中径材	128.72	一般建築材 (24cm)	55
カラマツ大径材	—	—	—
カラマツ中径材	—	—	—
スギ複層林	1.09	一般建築材 (28~36cm)	55~110
ヒノキ複層林	—	—	—
その他複層林	—	—	—
天然生アカマツ中径材	—	一般建築材 (25cm)	55
ぼう芽	—	しいたけ原木 (8~12cm)	25
天然林漸伐	—	家具・木工・加工用 (30cm)	70
ブナ漸伐	—	家具・木工・加工用 (40cm)	150
択伐	122.69	家具・木工・加工用 (30cm)	回帰年は定めない
その他	—	定めない (保護樹帯等)	定めない
生産群設定外	—	(更新困難地等)	—
合計	744.37		

(注) 1. 「生産目標等」の数値は、生産目標とする胸高直径である。

2. 択伐生産群の伐採は標準伐期齢以上とし、隣接林分の主伐、間伐時に併せるなど適時に行うものとする。

## (5) 資源の循環利用林における生産群別の標準伐採量

当該森林計画区の「資源の循環利用林」は分収林が大部分であり、標準伐採量は定めないこととする。

## (6) 伐採総量

(単位：面積ha、材積)

区 分		林 地					林地 以外	合 計	
		主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐 採 量	計			
水 土 源 か ん 養 タ イ プ 林	国土保全タイプ	—	2,363 (31.93)	2,363	15,700	330,469	—	330,469	
	水	スギ長伐期	1,618	126,186					127,804
		スギ分散伐区	—	114,130					114,130
		アカマツ長伐期	—	770					770
	源	アカマツ分散伐区	—	2,375					2,375
		スギ複層林	1,846	38,789					40,635
		天然生アカマツ 分散伐区	—	—					—
	か ん	ぼう芽分散伐区	—	—					—
		天然林漸伐 分散伐区	1,422	1,832					3,254
		ブナ漸伐分散伐区	—	—					—
	養 タ イ プ	択 伐	275	18,282					18,557
		そ の 他	—	517					517
		施業群設定外	—	—					—
	全 イ プ 小 計	小 計	5,161	302,881 (4,294.82)					308,042
計		5,161	305,244 (4,326.75)	310,405					
と森 の林 共と 生人 林	自然維持タイプ	2,560	104 (0.63)	2,664					
	森林空間利用 タイプ	—	1,700 (23.27)	1,700					
	計	2,560	1,804 (23.90)	4,364					
循 資 環 源 利 の 用 林	スギ中径材	8,801	4,486	13,287	700	16,069	—	16,069	
	アカマツ中径材	966	1,116	2,082					
	スギ複層林	—	—	—					
	択 伐	—	—	—					
	計	9,767	5,602 (59.6)	15,369					
合 計		17,488	312,650 (4,410.25)	330,138	16,400	346,538	—	346,538	
年 平 均		3,498	62,530 (882.05)	66,028	3,280	69,308	—	69,308	

(注) ( ) は、間伐面積である。

## (7) 更新総量

(単位：h a)

区 分		水 土 保 全 林			森林と人との共生林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タイプ	水 源 かん養 タイプ	計	自 然 維 持 タイプ	森 林 空 間 利 用 タイプ	計		
人 工 造 林	単 層 林 造 成	—	27.65	27.65	—	—	—	19.06	46.71
	複 層 林 造 成	—	9.72	9.72	—	—	—	—	9.72
	計	—	37.37	37.37	—	—	—	19.06	56.43
天 然 更 新	天然下種第1類	—	10.23	10.23	—	—	—	—	10.23
	天然下種第2類	—	29.83	29.83	4.73	—	4.73	—	34.56
	ぼ う 芽	—	2.96	2.96	—	—	—	4.03	6.99
	計	—	43.02	43.02	4.73	—	4.73	4.03	51.78
合 計		—	80.39	80.39	4.73	—	4.73	23.09	108.21

## (8) 保育総量

(単位：h a)

区 分		水 土 保 全 林			森林と人との共生林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タイプ	水 源 かん養 タイプ	計	自 然 維 持 タイプ	森 林 空 間 利 用 タイプ	計		
保 育	下 刈	—	322.24	322.24	—	6.93	6.93	67.85	397.02
	つる切	—	87.72	87.72	—	12.99	12.99	5.95	106.66
	除 伐	2.14	228.99	231.13	—	14.28	14.28	9.16	254.57

### 3 林道の整備に関する事項

基幹・ その他別	開設・ 改良別	路線名	箇所 (林班)	延長 (m)	備考
基幹	開設	津川赤谷(松野沢) 林道	225	800	
	小計	1路線		800	
その他	開設	小鱒谷沢林道	201、202	2,000	
		小鱒谷沢支線			
		津川赤谷林道	219	1,500	
		鹿ノ又沢支線			
		釜杭林道	1037~1039	2,000	
	小計	5路線		8,500	
基幹	改良	石川林道	52	64	
		津川赤谷(鳥越) 林道	101、102	166	
		楡形(楡形)林道	17~22	222	
		五頭山北部(赤倉) 林道	109	28	
		五頭山北部(割石) 林道	112	117	
		馬取川林道	251、252	104	
		実川(実川)林道	239、240	177	
		本名津川林道	278~280	346	
		新谷川林道	215	23	
		津川赤谷林道 (新谷川支線)	216、217	183	
		土倉林道	221~223	172	
		五頭山中ノ沢 (中ノ沢)林道	210、211	117	
		五頭山中ノ沢 (五頭山)林道	206	44	
津川赤谷林道 土倉支線	223~225	127			

基幹・ その他別	開設・ 改良別	路線名	箇所 (林班)	延長 (m)	備考
基幹	改良	津川赤谷(諏訪峠) 林道	226、227	148	
		津川赤谷(土倉) 林道	223	15	
		津川赤谷(新谷川) 林道	215	42	
		五頭山中ノ沢(戸沢) 林道	207	40	
		女川林道	1377~1379	720	
		大石・小川(大石) 林道	1336、1337	360	
		藤沢林道	1372	210	
		高根鈴川林道	1132、1133	500	
		三面(三面)林道	1068、1069、 1078、1079	610	
		高根鈴川林道 布部山支線	1149、1150	350	
		小計	24路線		4,885
その他	改良	寺内林道	49	63	
		熊出林道	46~48	85	
		小出林道	50、51	28	
		水谷林道	59、60	75	
		田貝林道	68、69	58	
		高知山林道	73、75	92	
		三五郎山林道	287、288	57	
		三五郎山林道 三五郎山支線	289	27	
		大倉林道	260~262	112	
		本名津川林道 大久蔵支線	278	53	
		諏訪峠林道 諏訪峠支線	227	63	
		諏訪峠林道 諏訪峠第二支線	226、227	60	
		高知沢林道	204	19	

基幹・ その他別	開設・ 改良別	路線名	箇所 (林班)	延長 (m)	備考
その他	改良	人品頭山林道	214	31	
		上山田右ノ沢林道	1029	130	
		菅沼林道	1004	180	
		坪根林道	1001	350	
		上山田林道	1031	250	
		上山田林道 上山田支線	1031、1032	230	
		下山田林道	1032	50	
		坪根林道坪根支線	1001	80	
		小綱木林道	1349、1352	340	
		蝙蝠沢林道 脇ノ沢支線	1389	210	
		蝙蝠沢林道	1389	210	
		深沢林道	1381	210	
		大島搬入林道		10	
		大石林道中ノ沢支線	1336	110	
		西山林道	1370	200	
		安角林道	1348	140	
		小綱木林道名倉支線	1352、1353	240	
		小綱木林道 名倉2号支線	1352	90	
		小綱木林道 安古屋谷支線	1350、1352	70	
		湯沢林道	1397	20	
		安角山田川林道	1348	80	
		安角林道久保支線	1348	110	
		六本杉林道	1313	10	
		安角林道大ノ沢支線	1347	60	
		野田沢林道	1409、1410	330	
		鳶ヶ沢林道	1412	90	
		大平山林道	1414	420	
		南大平林道	1413	160	
		鳶ヶ沢林道右支線	1412	100	
		三面（末沢）林道	1070、1073、 1080	900	

基幹・ その他別	開設・ 改良別	路線名	箇所 (林班)	延長 (m)	備考
その他	改良	釜杭林道	1036、1037	160	
		大須戸林道	1130	190	
		葉採沢林道	1161、1162	80	
		下小揚林道	1049	110	
		高根鈴川林道 フスベ沢支線	1169、1170	200	
		天蓋林道	1131	12	
		沼田林道	1053	200	
		前山林道	1062、1064、 1065、1067	580	
		三面林道支線	1068、1069	310	
	新屋林道	1048	90		
	小計	53路線		8,135	
合計	開設	6路線		9,300	
	改良	77路線		13,020	

#### 4 治山に関する事項

位 置 (林 班)	区 分	工 種	計 画 量
1、1235、1236、1415、1416	保安林の整備	そ の 他	2 5 6 h a
10、13、14、15、19、24、27、30、31、32、 37、40、41、46、47、48、49、52、53、57、 59、60、64、72、87、88、89、90、101、102、 103、106、107、108、109、117、120、202、 204、207、208、209、210、212、223、226、 250、251、252、255、256、257、262、 265、289、321、1037、1124、1127、1315、 1333、1366、1375、1397	保 安 施 設	溪 間 工	1 5 9 箇所
10、19、24、27、30、37、40、41、46、47、 48、49、52、53、57、59、60、64、72、87、 88、89、90、101、102、103、106、107、108、 109、117、120、202、204、207、208、209、 210、212、223、226、250、251、252、255、 256、257、262、265、321		山 腹 工	
合 計	保安林の整備		2 5 6 h a
	保 安 施 設	溪間工・山腹工	1 5 9 箇所

## 5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

### (1) 保護林の名称及び区域

動植物の保護、遺伝資源の保存等を図ることを目的として、下記のとおり保護林を設定し、貴重な天然林等の自然環境維持に配慮しながら適切に保護、保存を図っていくこととする。

種 類	名 称	新既 設別	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
森林生態系 保護地域	朝日山地	既設	21,718.77		<p>この地域は、新潟県と山形県にまたがる朝日連峰の中心部にある。大朝日岳を主峰とする隆起山地で、日本海側型気候区特有の多雪地域であり、主稜線といくつかの支稜線は、季節風に伴う積雪の影響を受け、西緩東急の非対称山稜を呈している。</p> <p>この地域の主要部分は、人為の介入がほとんどなく、原生的な自然状態が維持されていることに加え、低地から高山帯まで広範な植生帯が存在し、亜高山帯針葉樹林を欠き低木林が発達する豪雪地特有の植生が見られるなど、変化に富んだ種々の生態系が展開し、多様な動植物が生息・生育している。</p> <p>これらの原生的な森林生態系を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資する。</p>
			保存地区 (12,293.12)	1075 全 1076 全 1088 全 1091 全 1092 全 1093 全 1094 全 1095 全 1098 全 1099 全 1100 全 1101 全 1102 全 1104 全 1105 全 1106 全 1107 全 1108 い 1109 全 1110 全 1111 全 1112 全 1113 全 1114 全 1115 全 1116 全	

種 類	名 称	新既 設別	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
森林生態系 保護地域	朝日山地	既設		1117 全 1118 全 1119 全 1120 全 1121 全 1187 全 1188 全 1189 全 1190 全 1191 全 1198 全 1199 全 1200 全 1201 全 1202 全 1203 全 1209 全 1210 全 1211 全 1212 全 1213 全	なお、低標高域において、近年、カシノナガキクイムシ被害の発生が確認されたことから、今後の推移を見守りつつ専門家等の意見を聴きながら、必要に応じて被害対策を講じることとする。
			保全利用地区 (9,425.65)	1074 全 1086 全 1087 全 1089 全 1089-1 全 1090 全 1096 全 1097 全 1103 全 1108 イ 1155 全	

種 類	名 称	新既 設別	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
森林生態系 保護地域	朝日山地	既設		1156 全	
				1157 全	
				1158 全	
				1159 全	
				1160 全	
				1163 い、ろ	
				1164 ろ、イ	
				1165 ほ、イ <sub>2</sub> 、イ <sub>3</sub>	
				1166 い <sub>1</sub> 、ろ、は	
				1167 い〜と	
				1168 全	
				1169 全	
				1170 全	
				1171 い〜に <sub>2</sub>	
				1172 い〜ほ	
				1173 い〜は	
				1174 い、ろ、 に <sub>1</sub> 〜に <sub>5</sub>	
				1175 い、イ <sub>1</sub> 〜イ <sub>3</sub>	
				1176 い	
				1177 全	
				1178 い <sub>1</sub> 、ろ〜と <sub>3</sub>	
				1179 全	
				1180 全	
				1181 全	
				1182 全	
				1183 全	
				1184 全	
				1185 全	
				1186 い〜は	
				1192 い、は <sub>1</sub> 〜は <sub>5</sub>	
1193 全					
1194 全					

種 類	名 称	新既 設別	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
森林生態系 保護地域	朝日山地	既設		1195 全 1196 い～に <sub>4</sub> 、 1197 全 1206 全 1207 全 1208 全	
	飯豊山周辺	既設	15,287.05		この地域は、新潟、山形、 福島の3県にまたがる飯豊 連峰の中心部にある。日本 海側型気候区の豪雪地帯に おける典型的な山地帯から 高山帯までの原生的な天然 林を保存することにより、 森林生態系からなる自然環 境の維持動植物の保護、遺 伝資源の保存、森林施業・ 管理技術の発展、学術研究 に資する。  なお、低標高域において、 近年、カシノナガキクイム シ被害の発生が確認された ことから、今後の推移を見 守りつつ専門家等の意見を 聴きながら、必要に応じて 被害対策を講じることとす る。
			保存地区 (7,138.33)	93 は、ハ <sub>1</sub> 、ハ <sub>2</sub> 94 い～ろ <sub>2</sub> 、 ロ <sub>1</sub> ～ロ <sub>13</sub> 、 ロ <sub>15</sub> 、ロ <sub>16</sub> 、 ハ <sub>1</sub> ～ハ <sub>3</sub> 95 た～そ、 イ <sub>11</sub> ～イ <sub>13</sub> 234 ろ～り、イ <sub>2</sub> 、 イ <sub>4</sub> 、イ <sub>5</sub> 235 全 242 へ、と、 ち <sub>2</sub> ～ぬ、イ <sub>4</sub> 、 イ <sub>6</sub> ～イ <sub>8</sub> 243 い <sub>1</sub> ～そ、 つ <sub>2</sub> 、つ <sub>4</sub> ～ね、 ロ <sub>1</sub> ～ロ <sub>7</sub>	
保全利用地区 (8,148.72)	33 ろ <sub>4</sub> ～は <sub>4</sub> 、 ほ <sub>1</sub> ～り <sub>5</sub> 、 ぬ <sub>2</sub> 、 る <sub>4</sub> ～る <sub>11</sub> 、 イ <sub>1</sub> ～イ <sub>3</sub> 、				

種 類	名 称	新既 設別	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
森林生態系 保護地域	飯豊山周辺	既設		33 ロ <sub>3</sub> ～ロ <sub>5</sub> 、 ハ <sub>3</sub> ～ハ <sub>19</sub> 、 ニ <sub>1</sub> ～ホ <sub>6</sub> 93 い、ろ、 イ～ロ <sub>2</sub> 94 イ <sub>1</sub> 、イ <sub>2</sub> 、 ロ <sub>14</sub> 、ハ <sub>4</sub> 95 ち～よ、 イ <sub>2</sub> ～イ <sub>10</sub> 233 は～ち、 イ <sub>3</sub> ～イ <sub>5</sub> 234 い、イ <sub>1</sub> 、イ <sub>3</sub> 236 全 241 ほ <sub>2</sub> ～ち、ロ 242 い～ほ、ち <sub>1</sub> 、 イ <sub>1</sub> ～イ <sub>3</sub> 、 イ <sub>5</sub> 、ロ 243 つ <sub>1</sub> 、つ <sub>3</sub> 、 イ <sub>1</sub> ～イ <sub>3</sub> 、 ロ <sub>8</sub> ～ロ <sub>10</sub> 244 全 1345 ろ 1417 ロ <sub>1</sub> ～ロ <sub>3</sub>	
森林生態系保護地域計			37,005.82		

種 類	名 称	新既 設別	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
森林生物 遺伝資源 保存林	越後山脈	既設	2,008.53	273- I ぬ <sub>3</sub> 、わ～ね、 イ <sub>3</sub> 、イ <sub>4</sub> 276 全 277 い～な <sub>5</sub> 278 い <sub>1</sub> ～ロ 279 い～へ <sub>2</sub> 、 と <sub>1</sub> ～わ	<p>福島県境の本名御神楽岳を中心とした山岳地帯で、標高約300～1,400mの範囲にあり、日本海側要素の植物が多く分布する温帯の多雪・豪雪地で、原始的な天然生林と雪崩の浸食による急峻な地形が特徴である。</p> <p>保存林における遺伝、育種に係る調査・研究のほか、今後の技術進歩と生物の新たな用途開発等に資する。</p> <p>なお、低標高域において、近年、カシノナガキクイムシ被害の発生が確認されたことから、今後の推移を見守りつつ専門家等の意見を聴きながら、必要に応じて被害対策を講じることとする。</p>
森林生物遺伝資源保存林計			2,008.53		
林木遺伝資 源保存林	乙アカマツ	既設	1.96	1 ろ	<p>日本海側型気候区における、アカマツの遺伝資源の保存。</p> <p>松くい虫被害防止のため薬剤散布を継続実施し、保存に努めることとする。</p>

種 類	名 称	新既 設別	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
林木遺伝資 源保存林	胎内山 ミズナラ	既設	8.42	33 る <sup>12</sup>	<p>日本海側型気候区における、ミズナラの遺伝資源の保存。</p> <p>近年、カシノナガキクイムシ被害を受け、保存対象樹種であるミズナラ大径木の枯死が顕著であるが、若齢木の被害は見られない。今後の被害対策については、関係機関と連携し対応することとする。</p>
	赤谷山 天スギ	〃	3.00	102 ゆ	<p>日本海側型気候区における、天スギの遺伝資源の保存。</p> <p>近年、ツキノワグマによる皮剥被害が発生していることから、引き続き経過観察のうえ、対応を検討する。</p>
	目指岳 コウヤマキ	〃	10.33	256 イ <sup>4</sup>	<p>日本海側型気候区における、コウヤマキの遺伝資源の保存。</p> <p>コウヤマキが隔離分布している北限地域であり、健全な状態で維持されていることから、引き続き現状が維持できるよう管理することとする。</p>

種 類	名 称	新既 設別	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
林木遺伝資源保存林	大 久 蔵 トチノキ	既設	8.83	280 ろ	日本海側型気候区における、トチノキの遺伝資源の保存。 健全な状態で維持されていることから、引き続き現状が維持できるよう管理することとする。
	白山ケヤキ	〃	3.01	322 ろ	日本海側型気候区における、ケヤキの遺伝資源の保存。 健全な状態で維持されていることから、引き続き現状が維持できるよう管理することとする。
林木遺伝資源保存林計			35.55		
植物群落保護林	猿ヶ城岩オ オフジシダ	既設	5.25	53 わ <sub>3</sub> 57 い <sub>3</sub>	オオフジシダをはじめとする希少な暖地性シダの分布地（北限）の保護。 近年、カシノナガキクイムシ被害が進行し、ミズナラの枯死木が目立っているため、今後、オオフジシダ等シダ植物の生育環境への影響について、巡視を強化し必要に応じて植生調査等を計画する。
	赤 谷 天 ス ギ	〃	143.95	100 は～ほ	天然スギ（赤谷スギ）の保護。 近年、ツキノワグマによる皮剥被害が一部発生していることから、引き続き経過観察のうえ、対応を検討する。

種 類	名 称	新既 設別	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
植物群落 保護林	加 治 川 ブ ナ ・ ユキツバキ	既設	73.70	91 い	<p>加治川流域におけるブナ・ユキツバキ群落の分布上限。</p> <p>健全な状態で維持されていることから、引き続き現状が維持できるよう管理することとする。</p>
植物群落保護林計			222.90		
郷土の森	朝 日 村	既設	200.00	1164 い 1165 い～に、イ	<p>ブナやミズナラの大木がうっそうと林立し、沢沿いにはトチノキなどを混生する原生的な天然生広葉樹林。区域内には石黒山登山道が通り、市民の自然探勝や森林浴等に利用され親しまれている。</p> <p>利用に伴う森林の劣化はなく、適正に維持・管理されていることから、今後とも管理主体である村上市と連携して、地域に親しまれる森林として利用しつつ、自然環境の維持・保存に努めることとする。</p>

種 類	名 称	新既 設別	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
郷土の森	菅名岳	既設	214.46	286 ち <sub>1</sub> 〜り <sub>2</sub> 287 う <sub>1</sub> 〜ま 288 む〜う <sub>2</sub>	<p>沢沿いにはカツラや、トチノキ、サワグルミ、ケヤキなどの巨木が溪畔林を形成し、中腹にはブナ・ユキツバキ群落が分布する天然生林。</p> <p>菅名岳の山開き、自然探勝、自然観察会など市民に親しまれ、歩道なども整備されている。</p> <p>利用に伴う森林の劣化はなく、適正に維持・管理されていることから、今後とも管理主体である五泉市と連携して、地域に親しまれる森林として利用しつつ、自然環境の維持・保存に努めることとする。</p>
郷土の森計			414.46		
保護林合計			39,687.26		

(2) 緑の回廊の名称及び区域

より広範で効果的な森林生態系の保護・保全に努めるため野生動植物の移動経路を確保し、生息・生育地の拡大と相互交流を促すことを目的として、下記のとおり緑の回廊を設定する。

名 称	新既 設別	延 長 (km)	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
緑の回廊 越後線	既設	20.5	3,476.44	265 全 266 全 267 い～ほ <sub>1</sub> 、へ、 イ <sub>2</sub> 270 全 271 全 280 い、は <sub>1</sub> ～イ <sub>4</sub> 281 全 282 全	「利根川源流部・燧ヶ岳 周辺森林生態系保護地域」 と「越後山脈森林生物遺伝 資源保存林」を結ぶ越後山 脈沿いで、天然生林の多い 地域である。 本緑の回廊は、主稜線に 設定していることから、人 為の影響がほとんどないた め、引き続き現状が維持で きるよう管理することとす る。
鳥海朝日・ 飯豊吾妻 緑の回廊	既設	46.0	6,697.82	1015 全 1017 全 1019 に、イ 1027 全 1040 は、に 1046 全 1047 全 1066 全 1067 い～と、 ロ <sub>1</sub> ～ロ <sub>4</sub> 1068 全 1069 全 1070 全 1071 全 1072 全	「朝日山地森林生態系保 護地域」と「飯豊山周辺森 林生態系保護地域」を結ぶ 天然林を主体とした地域で ある。 本緑の回廊は、主稜線に 設定していることから、人 為の影響がほとんどないた め、引き続き現状が維持で きるよう管理することとす る。

名 称	新既 設別	延 長 (km)	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
鳥海朝日・ 飯豊吾妻 緑の回廊	既設			1073 全 1340 全 1341 い、ろ、イ <sub>1</sub> 1342 全 1343 全 1344 い 1345 い 1357 全 1358 い～よ、 イ <sub>1</sub> ～イ <sub>4</sub> 1359 る <sub>1</sub> ～た、 イ <sub>3</sub> 、イ <sub>4</sub> 1360 全 1361 全 1407 い～る、ロ 1408 全 1417 イ <sub>1</sub> ～イ <sub>3</sub> 1418 全 1420 ほ～ち 1421 全 1423 全 1425 全	
合 計		66.5	10,174.26		

6 レクリエーションの森の名称及び区域

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考	
自然 休 養 林	五 頭	既設	1,849.95	<p>五頭連峰の菱ヶ岳、五頭山、松平山に至る稜線をはさんだ両側に位置し、山腹から稜線付近は、ブナ、ミズナラ、シデ等の原生的な天然生林、中腹以下は、ナラ類やカエデ類等の広葉樹二次林が多く、優れた自然景観を呈しており自然観察、探勝等に利用されている。</p> <p>山麓には、キャンプ場等が設置されており、キャンプ、登山、ハイキング等野外スポーツの場として利用され、地元はもとより県北部の象徴的な森となっている。</p> <p>近年、カシノナガキクイムシ被害が進行し、コナラ等の枯死木の倒木の危険性が高いため、歩道周辺など利用者の安全を確保が困難な場合には、除去するとともに巡視の強化や利用者からの情報収集など、安全の確保に努めることとする。</p>	116 い	<p>育成単層林 施業</p> <p>育成複層林 施業</p> <p>天然生林施 業</p>	
							117 ろ
							113 い、は <sub>1</sub> ～に、 へ～り、 る <sub>1</sub> ～か <sub>2</sub> 、よ、 た、そ
			森林				116 ろ～と、 ぬ～る <sub>2</sub> 、 か～れ
			スポーツゾーン 512.07				117 は <sub>1</sub> ～ほ <sub>1</sub> 、ち、 り、る <sub>1</sub> 、わ <sub>1</sub> 、 わ <sub>2</sub> 、よ、た、 ね、な <sub>3</sub>
			野外				119 と <sub>2</sub>
			スポーツゾーン 177.45				120 い <sub>1</sub> ～い <sub>3</sub> 、 ろ <sub>1</sub> ～ろ <sub>10</sub> 、 ろ <sub>12</sub> 、は
			風景ゾーン 1,160.43				206 ろ、に <sub>2</sub> 、ち <sub>3</sub> 、 ち <sub>4</sub>
							113 ろ、ほ、ぬ、 か <sub>3</sub> 、れ、 つ～う
							114 い <sub>1</sub> ～ほ
							115 い <sub>1</sub> ～ほ
							116 ち～り <sub>2</sub> 、わ、 そ～う <sub>2</sub>
							117 い <sub>1</sub> 、い <sub>2</sub> 、 ほ <sub>2</sub> ～と、ぬ、 る <sub>2</sub> 、か、 れ <sub>1</sub> ～つ、な <sub>1</sub> 、 な <sub>2</sub> 、な <sub>4</sub> ～な <sub>7</sub>
							118 い <sub>1</sub> ～る <sub>2</sub>
							119 い～と <sub>1</sub>

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
自然 休養 林	五 頭	既設			120 い <sub>4</sub> 、い <sub>5</sub> 、 ろ <sub>11</sub> 、ろ <sub>13</sub>	天然生林施 業
					204 く <sub>1</sub> 、く <sub>2</sub>	
205 い						
206 い、は <sub>1</sub> 、は <sub>2</sub> 、 ほ〜と <sub>2</sub> 、ち <sub>2</sub> 、 ち <sub>5</sub> 、ち <sub>6</sub> 、ぬ <sub>1</sub> 、 ぬ <sub>2</sub>						
207 ほ <sub>2</sub>						
208 〜 <sub>2</sub> 、と <sub>2</sub>						
209 〜 <sub>2</sub> 、と <sub>2</sub>						
113 イ	林地以外					
115 イ						
116 イ〜ロ <sub>2</sub>						
117 イ <sub>1</sub> 〜ニ						
118 イ <sub>1</sub> 、イ <sub>2</sub>						
119 イ <sub>1</sub> 、イ <sub>2</sub>						
120 ハ <sub>1</sub> 〜ニ <sub>2</sub>						
204 イ						
206 イ <sub>1</sub> 、ロ						
自然休養林計			1,849.95			

種類	名称	新既設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
自然観察教育林	きのと	既設	32.61	胎内市の西方に位置し、100年生を超えるアカマツ天然生林が特色のある景観をなしており、市民の自然観察等に利用されている。 なお、アカマツ保存のため、松くい虫防除対策として薬剤散布等を今後とも継続実施することとする。	1 は <sub>2</sub> ～は <sub>8</sub> ----- 1 い <sub>1</sub> 、い <sub>2</sub> 、は <sub>1</sub> 、に～り	育成複層林施業  天然生林施業
	瀬波 いこいの森	既設	122.89	瀬波温泉を中心とした区域で、日本海に面した風光明媚な海岸林が美しく、山間の温泉は、30m以上湯煙を噴出しているなど変化に富んでいる。地元の学生や市民、温泉客などの自然観察、散策等に利用されている。 なお、海岸林を形成していたアカマツ、クロマツは、松くい虫被害により壊滅状態となったが、現在、マツ林復活のための植栽を継続的に実施しているところであり、市民やボランティア団体等の参加も加わり、地域の森林として親しまれている。今後も引き続き市民等と連携し、マツ林復活に努めることとする。	1236 か～な <sub>2</sub> ----- 1235 い、ろ、ほ～る <sub>1</sub> 、わ 1236 い <sub>1</sub> ～ぬ、る <sub>2</sub> 、る <sub>3</sub> 、る <sub>7</sub> 、る <sub>9</sub> ～る <sub>11</sub> 、わ <sub>1</sub> ～わ <sub>2</sub> 、む～や ----- 1235 は、に、る <sub>2</sub> 、る <sub>3</sub> 1236 る <sub>1</sub> 、る <sub>4</sub> ～る <sub>6</sub> 、る <sub>8</sub> 、る <sub>12</sub> 、ら <sub>1</sub> ～ら <sub>3</sub> ----- 1235 イ <sub>1</sub> ～イ <sub>3</sub> 1236 イ、ロ <sub>11</sub> 、ロ <sub>12</sub> 、ハ <sub>1</sub> ～ハ <sub>3</sub>	育成単層林施業  育成複層林施業  天然生林施業  林地以外

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
自然 観 察 教 育 林	お 幕 場 いこいの森	既設	174.44	<p>村上藩主が園遊、行楽に訪れた地といわれ、現在では林齢100年を超えるアカマツ天然生林が、自然の庭園を思わせるような景観を呈しており、市民の自然観察、散策等に利用されている。</p> <p>なお、地域に親しまれているマツ林を守るため、地元自治体と連携して松くい虫防除対策（薬剤散布）を実施しており、今後も引き続き防除に努めるものとする。</p>	1415 い、ほ <sub>1</sub> ～に <sub>10</sub> 、 ほ <sub>2</sub> 、り <sub>2</sub> ～り <sub>5</sub> 、 り <sub>8</sub>	育成複層林 施業
					1416 は、に、ち、 わ	
					1415 ろ、ほ <sub>1</sub> 、 へ～り <sub>1</sub> 、り <sub>6</sub> 、 り <sub>7</sub> 、り <sub>9</sub>	天然生林施 業
	平 林 史 跡 の 森	〃	53.35	<p>中世の典型的な土留築造の山城跡を中心とする区域で、現在でも館跡、物見山、のろし山、馬洗場、土塁等がほぼ原形どおり残っており、市民の自然観察等に利用されている。</p> <p>なお、森林病虫害被害によるアカマツやコナラの枯損木が多いため、特に、歩道や休憩所の周囲などの巡視に努め、危険箇所早期発見、安全対策を講じることとする。</p>	1362 い <sub>1</sub> 、い <sub>2</sub> 、ほ <sub>2</sub>	育成複層林 施業
					1363 つ、ね 1364 ろ <sub>3</sub> 、ろ <sub>4</sub>	
					1362 イ <sub>1</sub> ～イ <sub>3</sub> 1363 ロ 1364 イ	林地以外
	実 川	〃	22.65	<p>実川上流右岸に位置し、ブナ、ミズナラ等の天然生林で、下層にはユキツバキを伴う。また、飯豊連峰の大日岳の登山基地として避難小屋が整備されている。</p>	241 と <sub>1</sub>	天然生林施 業
					241 ロ	

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
自然 観 察 教 育 林	実 川	既設		当該地は、飯豊山周辺森林生態系保護地域にも指定しているため、自然環境が維持されるよう巡視に努めることとする。		飯豊山周辺森林生態系保護地域内
	越後下関 城址の森	〃	11.74	<p>中世の山城跡地で、古くから「下関の山城」と呼ばれ、地域住民の憩いの場として親しまれ、自然体験の森、歴史散策の森として適している。</p> <p>なお、森林病虫害被害によるアカマツやコナラの枯損木が多いため、特に、歩道や休憩所の周囲などの巡視に努め、危険箇所の早期発見、安全対策を講じることとする。</p>	<p>1313 も<sub>1</sub></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>1313 ひ<sub>1</sub></p>	<p>育成複層林施業</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>天然生林施業</p>
自然観察教育林計			417.68			

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
森林スポーツ林	荒川町民福祉の森	既設	85.52	荒川下流の左岸、下越森林管理署との管理境界付近に位置し、この森林に介入している通称「梨の木池」を中心とした区域であり、森林散策、魚釣、ピクニック等に利用されている。 このため、利用者の安全に配慮し巡視の強化に努めることとする。	1302 ろ <sub>7</sub> ----- 1302 ろ <sub>1</sub> 、ほ <sub>6</sub> 、ぬ <sub>2</sub> 、る <sub>1</sub> 、る <sub>3</sub> 、る <sub>5</sub> ~る <sub>6</sub> ----- 1303 ろ <sub>3</sub> ~る <sub>5</sub> ----- 1302 い ----- 1302 イ <sub>1</sub> ~イ <sub>3</sub> 、ハ 1303 ロ	育成単層林施業  育成複層林施業  天然生林施業  林地以外
	荒川峡自然の森	〃	36.52	荒川の右岸に位置し、奇岩と溪谷美に富み景勝地として有名である。また、多雪地域には希である100年生を超えるヒノキ等の人工林も周囲の景観と一体化している。溪谷沿いに湯沢、高瀬、鷹の巣、雲母の温泉郷があり、温泉客の自然探勝、近隣都市部の市民等のキャンプ、ピクニック、フィールドアスレチック等に利用されている。 このため、利用者の安全に配慮し巡視の強化に努めることとする。	1402 わ、よ、た 1403 い ----- 1402 ろ <sub>1</sub> 、る <sub>2</sub> 、か、れ、そ ----- 1402 ロ	育成複層林施業  天然生林施業  林地以外
森林スポーツ林計			122.04			

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
野 外 ス ポ ー ツ 地 域	胎 内 スポーツ林	既設	189.26	胎内市東部に位置し、12月～3月末までの間は安定した積雪があり、起伏に富んだ地形は、初級～上級者向きのスキー場に適しており、隣接する民有地のスキー場と一体利用が可能である。 また、キャンプ場等が設置されているため、通年利用されていることから、利用者の安全に配慮し巡視の強化に努めることとする。	39 ろ <sub>1</sub> 40 ろ、は、り、ぬ <sub>1</sub> 、わ～よ <sub>3</sub> 、つ <sub>1</sub> 、つ <sub>2</sub> 、な	育成複層林 施業
					25 い <sub>1</sub> 38 か <sub>1</sub> 39 い <sub>1</sub> 、い <sub>2</sub> 、ろ <sub>2</sub> 、ろ <sub>3</sub> 、ほ、と <sub>1</sub> 、わ <sub>1</sub> 、か <sub>1</sub> 、よ <sub>1</sub> 40 い、に、へ～ち、ぬ <sub>2</sub> ～る <sub>3</sub> 、た <sub>1</sub> ～そ <sub>4</sub> 、ね <sub>1</sub> 、ね <sub>3</sub> 41 ほ	
					25 ロ、ハ 39 イ <sub>1</sub> ～ハ 40 イ <sub>2</sub> ～ロ <sub>2</sub> 、ニ <sub>2</sub>	林地以外
	奥 胎 内 スポーツ林	〃	4.83	胎内川ダム上流部右岸に位置し、ブナ、ミズナラ等の天然生広葉樹林に囲まれた区域で、森林と溪谷美が楽しめる春～秋にかけて利用されている。 なお、カシノナガキクイムシ被害によるミズナラの枯損が進行していることから、利用者の安全に配慮し巡視の強化に努めることとする。	32 た	天然生林施 業
					32 ロ、ニ <sub>1</sub> 、ニ <sub>2</sub> 、ト <sub>1</sub> ～ト <sub>5</sub>	林地以外

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
野 外 ス ポ ー ツ 地 域	ニノックス スキー場	既設	325.81	新発田市東方の二王子岳山腹に位置し、高速道路等の整備が進み交通の便も良く、雪質、積雪ともに恵まれた立地条件にあり、起伏に富んだ地形は、初級～上級者用スキー場として利用されている。 このため、利用者の安全に配慮し事業主体と連携し、スキーコース等の周囲の森林巡視に努めることとする。	62 に～り、る <sub>1</sub> 、 る <sub>2</sub> 、つ～ね <sub>2</sub> ----- 62 れ、そ、 な <sub>1</sub> ～ら <sub>2</sub> 63 い <sub>2</sub> 64 い～は、 と～り 65 さ～ゆ ----- 61 ニ 62 イ、ハ <sub>2</sub> 、 ニ <sub>1</sub> ～チ 63 イ 65 イ <sub>2</sub> 、ロ <sub>2</sub>	育成複層林 施業  天然生林施 業  林地以外
	鳴 海 森 林 公 園	〃	34.00	猿田川上流部のブナ・ミズナラ等の天然生林内に位置し、優れた自然環境とふれあうことができ、森林空間を利用したキャンプ、ピクニック、自然探勝等に利用されている。 このため、利用者の安全と自然環境の維持・保全のため、巡視に努めることとする。	1174 は 1175 ろ ----- 1174 ロ <sub>5</sub> ～ロ <sub>9</sub>	天然生林施 業  林地以外
野 外 ス ポ ー ツ 地 域 計			553.90			

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
風景林	二王子参拝の森	既設	7.77	<p>二王子神社の周囲に配置し、高齢級のスギ人工林や天然生広葉樹林が、神社の背景林として優れた自然景観を生み出している。</p> <p>このため、景観の維持に配慮しつつ人工林の間伐を行ったところであるが、引き続き景観の維持に努めることとする。</p>	70 い〜こ	育成複層林 施業
					70 と <sub>2</sub> 71 る <sub>1</sub> 〜わ	天然生林施 業
	鈴ヶ滝	〃	14.98	<p>高根川支流の鈴ヶ谷にある「鈴ヶ滝」周辺区域で、ブナ、ミズナラ等の天然生林囲まれた高さ50mの絶壁から落ち込むの滝は、水量も豊富で瀑風、轟音は壮観である。鈴ヶ滝には、吊り橋や歩道が整備されており、滝壺まで行くことが可能である。</p> <p>このため、利用者の安全と自然環境の維持・保全のため、巡視に努めることとする。</p>	1134 に、ほ	天然生林施 業

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
	三川溪谷	既設	21.47	<p>中ノ沢川中流のV字に刻まれた溪谷と、天然生林が優れた自然景観を生み出し、県道沿いの右岸に広がっている。</p> <p>周辺一帯は、カシノナガキクイムシ被害が早期に発生した地区であり、白骨化したコナラの枯死木が目立つ。なお、当該地は、県道の対岸となっていることから、容易に林内に入ることができないため、今後の推移を見守ると同時に巡視を強化することとする。</p>	<p>202 は</p> <hr/> <p>202 い、ろ、に</p>	<p>育成複層林施業</p> <hr/> <p>天然生林施業</p>
風 景 林 計			44.22			

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
風 致 探 勝 林	椽平桜の森	既設	79.13	<p>白山桜、丁字桜、紅小桜等多種の桜が自生し、春には美しい景観を呈し、市民の自然探勝等に親しまれており、休憩所・展望台等の施設が整備されている。</p> <p>このため、利用者の安全に配慮し巡視の強化に努めることとする。</p>	18 れ〜つ、ら <sub>1</sub> 、 む〜う <sub>2</sub> 、 く〜や <sub>2</sub> 、け、 え〜あ、き、 ゆ <sub>2</sub> 〜み	育成複層林 施業
					18 ね、な、ら <sub>2</sub> 、 の、お、ま、 ふ、こ、さ、 ゆ <sub>1</sub>	天然生林施 業
					18 イ	林地以外
風 致 探 勝 林	慈光寺	〃	24.50	<p>滝谷川上流部右岸に位置し、コナラ等の広葉樹二次林が主で、ケヤキやアカマツ等の人工林も一部にある。慈光寺の背景にあたり、白山(1,012m)に至る登山道沿いであり、自然探勝等に利用されている。</p> <p>このため、利用者の安全に配慮し巡視の強化に努めることとする。</p>	322 き〜め	育成複層林 施業
					322 さ <sub>1</sub> 〜さ <sub>3</sub>	天然生林施 業
風 致 探 勝 林 計			103.63			

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考	
その他	胎内川ダム 展望台	既設	0.58		30 イ <sub>3</sub> 、イ <sub>4</sub>	林地以外	
	田貝山 避難小屋	〃	0.01		69 イ	〃	
	赤谷園地	〃	0.10		92 ハ	〃	
	二王子岳 避難小屋	〃	0.01		34 イ	〃	
	門内岳 避難小屋	〃	0.04		33 イ <sub>1</sub> 、イ <sub>2</sub>	〃 飯豊山周辺 森林生態系 保護地域内	
	頼母木 避難小屋	〃	0.02		33 ホ <sub>5</sub>	林地以外 〃	
	足ノ松 野営場	〃	2.56		33 る <sub>10</sub>	天然生林施 業 〃	
	湯ノ平 温泉小屋	〃	0.15		93 イ	林地以外 〃	
	梅花皮岳 避難小屋	〃	0.04		94 イ <sub>1</sub>	〃 〃	
	御西岳 避難小屋	〃	0.03		94 イ <sub>2</sub>	〃 〃	
	宝珠山麓 森林公園		〃	4.73		121 い〜ろ <sub>2</sub>	育成複層林 施業
						121 ホ	林地以外
三面駐車場	〃	0.13		1152 イ	〃		

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考	
その他	三面野営場	既設	0.10		1208 イ	林地以外 朝日山地森林生態系保護地域内	
	大熊 避難小屋	〃	0.03		1324 イ	林地以外	
	杵差 避難小屋	〃	0.01		1326 イ	〃	
	梁山泊 避難小屋	〃	0.01		1336 イ	〃	
	道陸神峰 避難小屋	〃	0.02		1108 イ	〃 朝日山地森林生態系保護地域内	
	猿田川 野営場	〃	〃	11.88		1166 い <sub>2</sub> 1178 い <sub>2</sub>	天然生林施業
						1166 イ <sub>1</sub> ～イ <sub>11</sub>	林地以外
	大石ダム 湖畔園地	〃	〃	2.03		1335 れ <sub>1</sub>	育成複層林施業
	東俣 避難小屋	〃	〃	0.02		1344 ろ	天然生林施業
切合 避難小屋	〃	〃	0.01		243 イ <sub>1</sub>	林地以外 飯豊山周辺森林生態系保護地域内	

種類	名 称	新既 設別	面 積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
そ の 他	三 国 岳 避 難 小 屋	既設	0.01		243 イ <sub>2</sub>	林地以外  飯豊山周辺 森林生態系 保護地域内
	御 神 楽 岳 避 難 小 屋	〃	0.01		273-II ほ <sub>2</sub>	天然生林施 業
	茶 銭 平 野 営 場	〃	0.61		279 へ <sub>3</sub>	〃
	白 山 避 難 小 屋	〃	0.01		323 と <sub>2</sub>	〃
	蟬ヶ平園地	〃	0.36		273-I は <sub>4</sub>	〃
	御 神 楽 岳 野 営 場	〃	0.30		273-I め <sub>2</sub>	〃
	三川オート キャンプ場	〃	5.64		223 ニ <sub>1</sub> 、ニ <sub>2</sub>	林地以外
そ の 他 計		29.45				
合 計			3,120.87			

## 7 その他必要な事項

### (1) 施業指標林、試験地等

種類	名称	設定年	面積 (ha)	位置 (林小班)	備考
施業指標林	複層林施業指標林	昭 63.8	0.84	287 ろ <sub>2</sub>	林業技術の定着及び普及並びに充実を図る。
施業指標林計			0.84		
次代検定林	一般次代検定林	昭 58.5	1.62	1402 ち	(東前局 7号)
	地域差検定林	昭 50.10	1.53	1373 ち <sub>3</sub>	(東前局 2号)
	〃	昭 58.10	1.34	223 よ <sub>3</sub>	(東前局 8号)
	抵抗性検定林	昭 63.10	0.53	1031 か <sub>5</sub>	(東耐雪前橋営 3号)
	〃	〃	1.07	1031 か <sub>6</sub>	( 〃 )
	〃	平 5.5	0.99	1336 よ <sub>2</sub> ~よ <sub>4</sub>	(東耐雪前橋営 5号)
	〃	平 1.10	0.96	47 る <sub>4</sub>	(東耐雪前橋営 4号)
	〃	昭 59.10	2.10	223 わ <sub>3</sub>	(東耐雪前橋営 1号)
	集団林検定林	平 11.10	0.39	1030 ろ <sub>2</sub>	(東前局 10号)
	〃	平 18.5	0.34	1048 な	(東前局 11号)
次代検定林計			10.87		
遺伝子保存林	スギ遺伝子保存林	昭 47.4	2.13	102 む <sub>1</sub>	
	〃	昭 45.4	2.00	1030 へ <sub>2</sub>	
	〃	昭 45.11	4.00	1030 る <sub>3</sub>	
	〃	昭 45.4	2.00	1390 ろ <sub>3</sub>	
遺伝子保存林			10.13		
母樹林	赤谷天スギ	昭 48.4	3.00	102 ゆ	特別母樹林
	三川天スギ	昭 48.4	3.18	221 ろ <sub>3</sub>	〃
母樹林計			6.18		
合計			28.02		

(2) フィールドの提供

対象地 (林小班)	設定の目的	備考
18 つ～み	ふれあいの森	72.49 ha
1236 い <sub>1</sub> ～や	ふれあいの森	76.02 ha

(3) その他

レクリエーションの森以外の森林空間利用タイプの施業方法

位置	面積 (ha)	施業方法
1035 る <sub>1</sub> 、ね <sub>1</sub> ～ね <sub>3</sub> 、む <sub>1</sub> 、む <sub>2</sub>		育成単層林施業
39 に		育成複層林施業
1035 い、ろ <sub>1</sub> 、に～り <sub>1</sub> 、ぬ、わ <sub>1</sub> 、 わ <sub>2</sub> 、つ <sub>1</sub> 、つ <sub>2</sub> 、な、う		
32 れ～ね 39 は、と <sub>2</sub> 、わ <sub>2</sub> 、か <sub>2</sub> 40 ね <sub>2</sub> 、ね <sub>4</sub> 56 に 1035 ろ <sub>2</sub> 、は <sub>1</sub> 、り <sub>2</sub> 、る <sub>2</sub> 、そ、ら 1229 は <sub>1</sub> ～に 1230 い～に 1403 ろ		天然生林施業
32 イ 40 イ <sub>1</sub> 、ニ <sub>1</sub> 、ニ <sub>3</sub> 、ニ <sub>4</sub> 1229 ロ 1230 イ、ロ 1236 ロ <sub>1</sub> 、ロ <sub>3</sub> ～ロ <sub>10</sub> 、ロ <sub>13</sub> 1415 イ		林地以外
計	501.89	

(注) (1)、(2)の箇所を除く。